巻　頭　言

教職課程センター所長　北 川　浩 子

2021年度，私たちの生活は，前年度同様に制約を求められることになりました。それはもちろん大学にも該当するのですが，本学の教職課程センターにおいては，新体制になって２年目で安定期を迎えることができました。

まず，授業方法を含め，教員も学生も急な変更に対応できる体制が確立されたことが挙げられます。実際2021年度は，対面で実施していた科目が，感染症拡大により急遽オンライン授業に変更され，組織的な対応を求められることがありました。幸いなことに，教員も学生もほぼ問題なくその移行に対応できました。これは「学びを継続する基盤が既に整備されている」と言ってもいいでしょう。

次に，このような有事における経験を活かして，教育現場で貢献したいと強く思う学生が増えてきたことにも触れておく必要があります。政策上はGIGAスクールや教職課程の見直しなど，本学の運営も多分に影響を受ける部分があります。しかし，このような過渡期においても，教職を志す学生が増加し，例年以上に教育現場に携わることを真剣に考える学生が増えてきました。この環境こそが，教職課程全体の好循環を生み出していると言うことができます。

もちろん，課題がないわけではありませんが，ポストコロナ時代の教職課程を見据えた場合に，本学の状況は極めて明るいものだと確信しています。その一端を本紀要からも感じ取っていただけると思います。

最後になりましたが，教職課程センター活動を更に充実させていくために，引き続き皆様方のご指導，ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。